

価値ある歴史を未来へつなぐ

伊仙町誌

便り

2021年8月

vol.

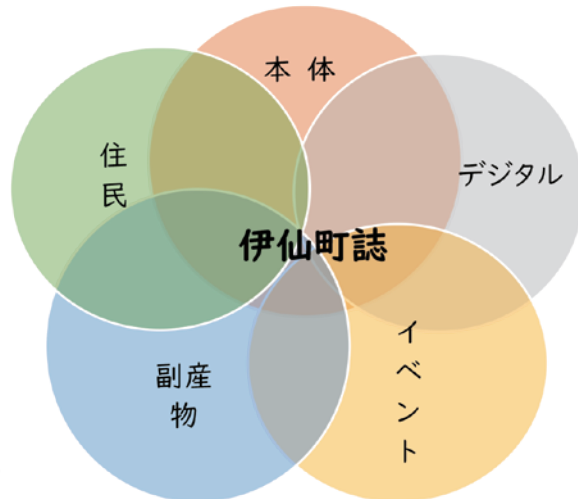
01



(面縄港を望む)

～43年の時を経て伊仙町誌の再編が始まる～

- 歴史・暮らし・自然環境・精神文化・島口・島唄・徳之島学教本・町制施行 60 周年・学術論文集積



- ・ライフストーリー
- ・聞き取り
- ・動画
- ・古い写真
- ・郷友会
- ・闘牛
- ・ワークショップ
- ・集落イベント

はじめに

奄美群島復帰二十五周年となる昭和五十三年十二月に発刊された「伊仙町誌」は、自然、社会環境、先史時代からの歴史、復帰後の伊仙町の歩み、そして人々の暮らしや島唄、島口、民話などで章立てされ、当時の実情がきめ細かく記述されています。専門の研究者ではないものの、地元の実情に詳しく、人望も厚かった地域の学識人の手によって書き上げられた「伊仙町誌」は、今手にとっても、読み物として、また本町の足跡を探索するための文献として、一読の価値あるものです。

この度伊仙町では、「伊仙町誌」を再編し、改めて発刊するための事業を開始しました。今後「伊仙町誌編纂審議会」の発足を予定し、そこで策定する基本計画に則って、住民の皆様への聞き取りや郷友会の皆様とのやり取りを通じて、過去だけではなく現在の町の姿を書き留め、未来を生きる人々へのバトンを繋いでいきたいと思っています。

ご協力依頼

本事業の始まりに当たり、皆様へお願いがあります。四十三年ぶりの町誌再編に当たっては、伊仙町、徳之島、奄美群島、琉球、薩摩にまつわる様々なジャンルの資料を集め、検証し、記録していくこととなります。もしお手元に左記の資料があり、参考資料としてお借りできるもの、またこの機会に寄贈して頂けるものがあれば、こちらまでご一報ください！

(0997・86・4183)

・文化 ・町政 ・島口 ・地図
・人物 ・民具 ・歴史 ・産業
・島唄 ・食 ・選挙 ・闘牛
などあらゆるジャンルの冊子・新聞・発刊物・写真・音声データ・映像など☆

『私たち世代は、しまの風俗や出身は将来の足かせになるものと教えられ、大和文化を無条件に受け入れることを大人から教えられた。これはアイデンティティの消失であった。』

八〇代以上の人達に、今こそ文化を聞き取り、残すことが島の子供達が外の世界へ出た時に、島を誇りに思い、大きく羽ばたくことになる。ひいては島の幸せにも繋がる。もう残されている時間は少ない。』
〜住民の方より

事務局体制

令和三年四月一日付で、社会教育課内に「町誌編纂室」が設けられました。今後、専門員や各部会の委員の方々への委嘱を経て、皆様のお力添え頂きつつ、未来志向の町誌の編纂を手掛けていきますので、歴史民俗資料館一階の町誌編纂室まで、お気軽にお立ち寄りください。

町誌編纂室長 松岡 由紀
町誌編纂室筆耕 樺島 裕子



旧歴史民俗資料館 義館長による高倉建築(左から2番目)



日本復帰協議会議長 いづみほつるろう 泉芳朗氏から鹿兒島県知事への感謝状贈呈

伊仙町誌 便利 vol.01

鹿兒島県大島郡伊仙町伊仙2945-3
伊仙町歴史民俗資料館1階
TEL:0997-86-4183 FAX:0997-86-4184
Email:rekiminkan01@t1.tokunoshima.net